
クロームのリボン

水色ペンキ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

クロームのリボン

【Zコード】

Z2022F

【作者名】

水色ペンキ

【あらすじ】

どの町にも郷土史があります。どの郷土史編纂事業でもインタビューが行われます。かつて録音された無数の肉声のうち、文字に起こされたものって一体何割くらいなんでしょうね。こぼれた声は媒体の劣化とともに、自然との世から消えてゆきます。そんな声を題（イズ）た、ちょっと短いお（ノイズ）で（ノイズ）。

(前書き)

ハイクションです。

(ノイズ)……からでしたね。そうですよ。若い人には空襲つてい
うと、そりやあ原爆とかね、今でも毎年NHKでね、ホラ。あとは
東京だとか。田舎は壊すものなんてなかつたと思うかもしません
けど、軍都でしたから、旭川は。来ましたよ。来ました。幸い大き
な被害はなかつたという話ですけど、戦時中のことですから、どう
だか……。師団はそういういましたけどね。私ら何も聞かされない。
あれだつてそうですよ。ガダルカナル。小林さんとこのお兄さんな
んか、栄町の。あとでもう、そうですね、何年も経つてからです。
悔しいって……。そんなものです。時代でした。とにかくみな明日
どうなるか今日どうなるか、いいえ、今晚ノイズしたよ、ねえ。東神楽の
ほう野菜買い出しにね、祖父なんかリヤカー引いて延々。でもま
だこのへんはましでしたよ。あとで聞いたら、東京なんか酷かつた
つて。そなんでしょう？

毎朝工場へ向かう途中に、ライラックの林があつたんです。いい
香りでした。年中咲いてるわけでもないのに、なぜかそれだけ覚え
てるのね。紫色の。感じ入るものがあつたんでしょうか。まだほん
の娘でしたけど、先の見えない暮らし、ああ、いやだなあ……。も
うああいうのは……。朝方家を出るときには、店の戸、引き戸ノイズけど、
開けるときには、氷でガツガツ引っ掛けります。冬ですよ。冬の話
で。えい、えいってこう押しますけど、なかなか開かない。そうし
ますとね、思い出しましたね。むかしは朝ご飯を食べて、むかしつ
て昔です、もつと昔、マーチンがね、朝一緒に出てましたから、笑
つて開けてくれたんですよ。……ハナさん、わたし開けますよ、そ
んなね。そんなこと思い出して、どうしちゃつたんだらうつて。私
たちも、世の中も、なん(ノイズ)なつてしまつ(ノイズ)つて思
いましたね。店の中にサンプルつて置くでしよう、その中に白黒で
ね、わたしと妹とマーチンと三人で撮つた写真がありまして。戦争

が始まったとき父が（ノイズ）つて。祖父は一本気な人で、なにやましいことがあるもんかって喧嘩になつたのを覚えてます。でも父が正しかつたんでしょうね。時代ですよ。そういうものは置けませんでした。

商売も最初はよかつたんです。出征記念なんかで正装して撮りたいつてお客様さんが一杯いて。でも父が南方にいつてすぐでしたか、祖父がすっぱり閉めました。祖母が嫌な商売だ嫌な商売だつて言い出して。いろんなこと（ノイズ）しうね。多かつたですよ。商店街でも昔のようには……。祖父がリヤカーを買つてきて、ああ、申し上げましたつけ、ええ、野菜。売るように。あたしは女子学校から工場へね。これは仕方ないです。行きたいとか行きたくないじゃありませんから。下宿振るわなくて。ええ、荷物は皆さん置いていかれますけど、学問どころじや。ねえ。

戦後何年も経つて、あたしも結婚しまして、写真館は夫が継ぎました。店は建て替えましたけど、場所は同じで。名前もね。姓は変えて。ああ、父が帰つてきてから道具を買い直しましてね、やりなおしたんです。祖父は（ノイズ）きましたから、一六〇年頃まででしたかねえ、引けなくなるまで毎朝農家まで行つてました。店をもう一度やるのには反対だつたみたいで、あたしにはそんなこと言いませんでしたけど。それでね、もうあたしも、ふふ、いい年になりましたけど、五〇年頃ですか、昭和の。ふと店に外人さんが見えましてね。藤堂ハナさんは（ノイズ）と仰るんですけども、ええ旧姓です、今は中本ですけどつていいましたら、わたくしマーチンの知り合いですと（ノイズ）してね。びっくりしました。だつてねえ、もう三十五年ですよ。ほら。思わないじやありませんか。そんな昔の話が。今から。

……お元気でよかつたですと仰るんですが、あたしその外人さんを存じませんから、どういった（ノイズ）と尋ねましたらね、ご戦友だそうです。マーチンはどうしてますかと聞きましたら、フイリ

ピンで亡くなつたと。戦中にです。驚きました。アメリカに帰つたはずだつたんですよ、ハワイよりずっと（ノイズ）ねえ、あつちに（ノイズ）と、思つて、ましたのに、よつこみ（ノイズ）……。その方も戦地でマーチンと話して、日本にこつこつ、あたしめたいな、知り合いがいると聞かされて、マーチンが亡くなつてから、機会があればこちらに寄つてみよつと三十年、そんな、ことらしくつて、ね……。生きてると思つ（ノイズ）たのに。だつてねえ（ノイズ）争、あとからですけど、聞けば聞くほど、アメリカさんが。父の前では言えませんんですけど。だからきっとつて。……わからないものですね。

その方が見えたときに、あたしね、宝物を見せたんです。マーチンがまだうちにいたころに、あたし（ノイズ）オルゴール。金属供出？ ありましたよ。でもね、娘でしたもん。それに、マーチンからもらつたオルゴールをね、鉄砲の弾になんて。そりやあ。誰に向かつて撃つの。でしよう。

でも壊れてたんですよ。ゼンマ（ノイズ）ろが痛んでまして。でもオルゴールの思い出を話しましたら、その方がこれは直せますよ、これの会社を知つてますからお預かりしますつてご親切に。それで、アメリカに持つて帰られて、何ヶ月後かにまた送つてきたんです。白黒の写えてありました。若いお一人がね、マーチンと、その方が、飛行機の前で笑つてまして。お手紙ではこんな（ノイズ）かなくて申し訳ありませんとおつしやつてしまつたけど、よかつたんですよ。爆撃機の前の写真でもね。もうそういう時代じゃありませんから。それでね、戦時中隠してたあの写真とそれ（ノイズ）ルバムに入れて、ああ、恒一、持つてきてくれる？ アルバム。戸棚の一番下のあそこ。そう。お願い。すいませんね、用意しておけばよかつたわ。

戦争はもういやですよ。もうあんなこと。あたしが生きて（ノイズ）た起こらないと願いたいのですけど。金輪際。あなた、記者さん？ お若い方がどう思つてらつしやるかわかりませんけど、戦前のね、日本も、アメリカも、憎しみあつ（ノイズ）わけじゃない

んですよ。今と同じですよ。國も人も。あたしは爆撃とか、恨んでませんけど、何が怖いって、みんな変わつてしまつことです。いざ（ノイズ）となると、それまでお隣さんみたいに付き合つていた人たちが、どんな（ノイズ）もやるようになる。怖いのはそこですよ。氣をつけてください。悪い國とよい國が戦つてとか、そんなウソをね……。今そういうのが……。そういうお話にすると、わけがわからなくなりますから。だからマーチ（ノイズ）、まあ、フィリピンから旭川へつてことはないでしょうけども、もしもですよ、マーチンが、お友達にあたしのことを話しながらね、ここ之上に飛んできて、仕方なく爆弾を落としていつたとしても……ないでしょうけど……不思議ではないと、思っています。そういうこと（ノイズ）をそらすと、個人が悪いみたいな、ねえ。違いますよ。

ああ、写真が来ました。ええとね、ええと……ほら、ここです。これが学生時代。あたしこんなに子どもだったかしらね。ふふ。こつちがフィリピ（ノイズ）なに立派になつてねえ。ひょろひょろだつたのに。二十歳そこそこでしょうね。兄みたいに思つてたわ。こんな。若いわねえ。ほんとに。若いわ……。

あら、恒一、それも持つててくれたの。あら。
回る？ まだ使かしら。ああ、回るわね……。

ご存じかしら。あたし歌詞ね、まだ覚えてるんですよ。この年で、はずかしいわね。

……。

I dream of Jeanie with the long brown hair,
Born like a vapor on the sweet summer air;
I see her tripping where the bright streams play,
Happy as the daisies that dan

ce on her way.
Many were the wild notes her
merry voice would pour,
Many were the blithe birds th
at warbled them o'er:
I dream of Jeanie with the li
ght brown hair,
Floating, like a vapor, on th
e soft summer air. . . .

綺麗でしょう。この音だけ（ノイズ）五十年前も変わら（ノイズ）
（ノイズ）あた（ノイズ）
（ノイズ）こ（ノイズ）

1993年採録 郷土史資料（録音不良のため不採用）資No. 1822

中本ハナさん（S3年生、女性 テープ#2）
2008年保期満了により廃棄。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n2022f/>

クロームのリボン

2010年10月28日04時34分発行